

テーマ：農業

■あるべき姿

- ・作ったものが思った通りの金額で買ってもらえる ・地元の野菜をたくさん食べたい ・大切さ、価値を伝えるイベント ・安い、安心・安全を売る
- ・健康的な暮らしとしてブランディング ・楽しそうに働いている ・生産者がもうかる ・若い後継者が増え、働きながらも農業ができる
- ・伝統野菜が売れる、消費される ・生産者、販売者、飲食店がつながりやすい ・農家生まれでなくても(知識なくても)農業に従事できる
- ・旬のものをおいしく食べる ・職として魅力 ・素敵な家族 ・おしゃれ・かっこいい農業(魅力ある農業に) ・他県の安い野菜を購入しない
- ・市場の原理、独自性 ・もうかる(産業) ・小規模の農業者がたくさん増える ・消費者は地元野菜を買う ・やりがいを感じる ・儲かる(農業)

■現状・課題

- ・きちんとしたお金の使い方を(生産者、消費者) ・若者が農業を行うことに対し意識が低い ・イメージからみて大変という声が多い
- ・体験が少ない、知られていない ・農業に関し知られる場が少ない(もっと情報を!) ・相談窓口が少ない ・体験が少ない、知られていない
- ・相談窓口がない ・農業関係の仕事ってどうやって就けるの? ・まち中でも農家レストランがほしい ・近所に直売所がある
- ・「食」<「教育費」「住宅費」・情報発信(長岡野菜)不足 ・とれたて野菜をたべる機会がほしい ・農業に興味をわくような呼びかけを行う
- ・収入が低い ・旬のものを食べる ・生産物販売(一次産業)×加工品販売(二次産業)△、サービス業体験(三次産業)△、
- ・虫がいない、オーガニック思考 ・子どもも安心の無農薬野菜

■やれること

農業のテーマパークを作る!!

なぜ?

- ・農業はもうかるという概念を植えつける
- ・長岡野菜のブランド化の確立
- ・若い人が小学校などに行く

- ・若者の農業参加
- ・オンラインの農作物、パッケージ、売り方
- ・若い人でも土地を借りて農業ができる

かっこいい農業をつくる あこがれ! おしゃれ! デザイン性◎

- ・農業とIT、芸術のコラボ
- ・農業×○○(何かコラボしていくことで入りやすくしていく)
- ・ストーリー化(イベント) 料理人
- ・教育・産業として一子ども、企業

やったことのないものはやりにくい!
→
子ども
学びの場
若手農家の就農

農業をたしなむ生き方が好き 20代の経験を30代へ活かす(セカンド農業)

■発表内容概要

農業のテーマパークを提案している。子どもが気軽に農業の体験ができたり、学びの場になったり、また、若い人が農業を体験することで就労にもつながると思う。今までにないかっこいいイベントを行っていきたい。

具体的には、東山をエリアとして、農業の1次産業ができて、焼いたら100円高く売れて、デザインまでできパッケージ化できればさらに高く売れるなど、子どもたちが体験できる農業のキッズニアのようなテーマパークができればよい。

道の駅としてテーマパークがあって、レンタルスペースであったり、農業を行う人が増えてほしいのもあるが、セカンド農業というキーワードで、仕事をしながら畑をやることで、産地を見てみたいということになると思う。

20代のがむしゃらに仕事を行った経験から新たに農業を行うなど、「30歳からの長岡の生き方」などの雑誌を作成し、例えば、ITをやっていたが、デザインをやっていたが、農業を行って、こんな生き方になったなど、皆さんに紹介してもらえるといいと思う。

